

**橋本市の10年間の変容及び都市間比較
(追加・修正)**

令和3年12月24日

橋本市建設部まちづくり課

目次

I 10年間の変容	1
1. 橋本市の概況	1
2. 人口・世帯	2
(1) 人口	2
(2) 世帯	2
(3) 地区別人口	3
(4) 昼間人口	4
(5) 常住外国人	4
(6) 通勤先	5
3. 産業	6
(1) 年齢別就業者数	6
(2) 小売業	6
(3) 小売業規模別事業所数	7
(4) 製造業	7
(5) 観光	8
4. 土地利用	9
(1) 土地利用現況	9
(2) 耕作放棄地	9
5. 住宅	10
(1) 住宅戸数	10
(2) 空き家	10
6. 交通	11
(1) 自動車保有台数	11
(2) 鉄道	12
7. 都市計画	13
(1) 都市計画道路	13
(2) 都市公園	13
(3) 汚水処理	14
8. 市民意向	14
(1) 定住意向	14
(2) 重点施策	15
II 都市間比較	16
1. 人口	16
2. 経済	18
3. 生活環境	22
4. 都市構造評価	24

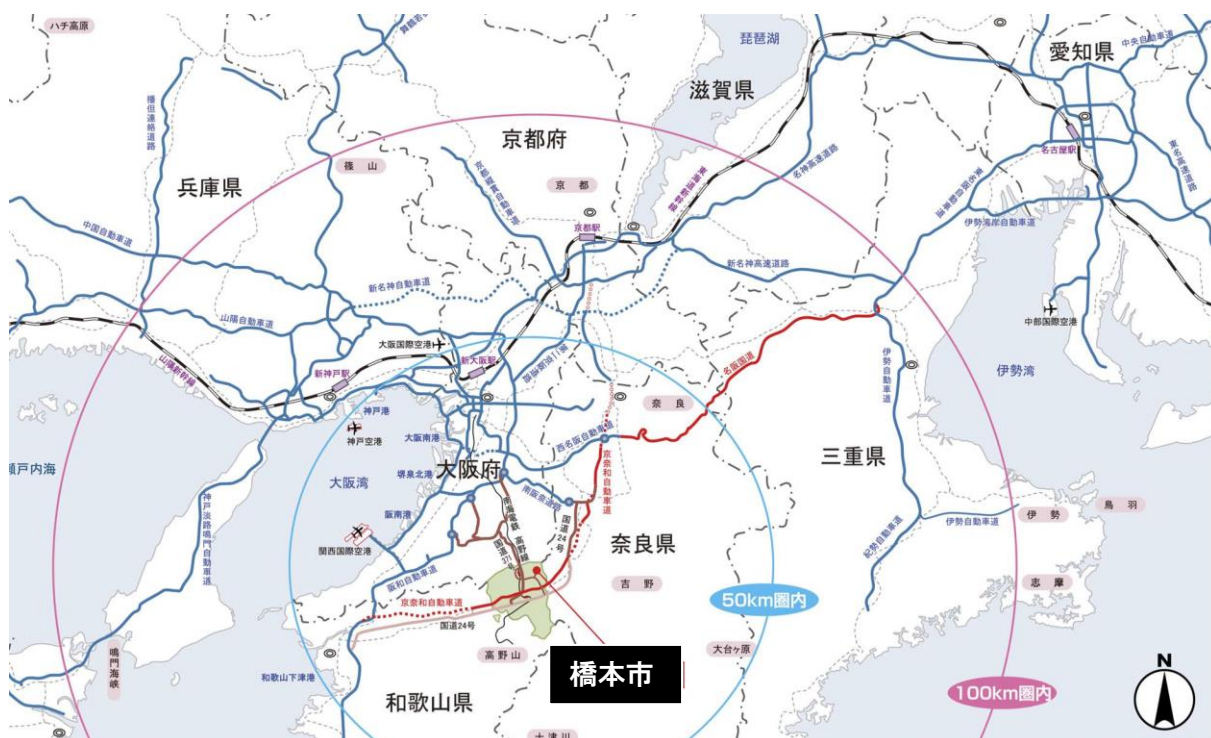
- 「橋本市の10年間の変容」は、統計等のデータを用い、概ね10年間のまちの変化を整理したものである。なお、平成18年3月に橋本市と高野口町は合併しており、合併以前のデータは新市に組替えたものである。
- 「都市間比較」は和歌山県紀北地域4市（橋本市、海南市、紀の川市、岩出市）で、4つの項目について比較したものである。

1. 橋本市の概況

本市は、和歌山県の北東端、紀伊半島のほぼ中央に位置し、和歌山市中心部、大阪市中心部へは、直線とともに約 40 kmの距離にある。また、北は大阪府河内長野市、東は奈良県五條市、南は九度山町と高野町、西はかつらぎ町に接している。

また、一級河川である紀の川を本流域に、橋本川、山田川、田原川、嵯峨谷川等を支流とする河川流域で形成され、市域の約 6 割を山林、約 1 割が農地として利用されており、次いで宅地となっている。

交通網は、国道 24 号、国道 370 号、国道 371 号及びその他の県道や市道などで構成される道路網と、市の中央を横断する高規格幹線道路である京奈和自動車道を中心に構成されている。また、公共交通は、南海高野線と JR 和歌山線、民間バス、コミュニティバスなどが運行している。

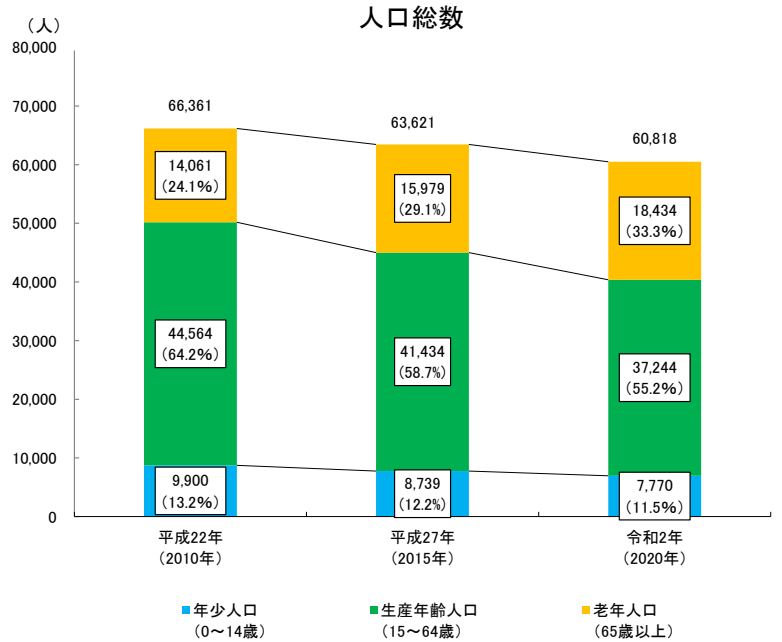


広域的な位置図

2. 人口・世帯（更新）

（1）人口

- ・平成 22 年（2010 年）から令和 2 年（2020 年）の 10 年間で 5,543 人減少しており、令和 2 年の人口は、概ね平成 2 年の人口規模となっている。
- ・10 年間で生産年齢人口（15～64 歳）、年少人口（14 歳未満）がそれぞれ 9.0 ポイント、1.7 ポイント減少している。
- ・老年人口（65 歳以上）は 9.2 ポイント増加している。

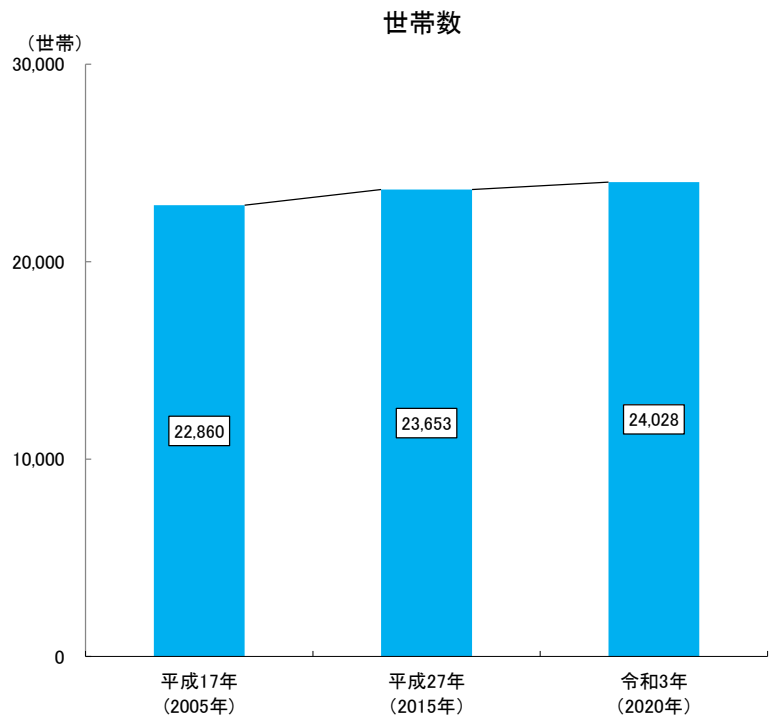


注：人口総数には年齢不詳を含むため、合計は 100%と
ならない。

資料：総務省「国勢調査」

（2）世帯

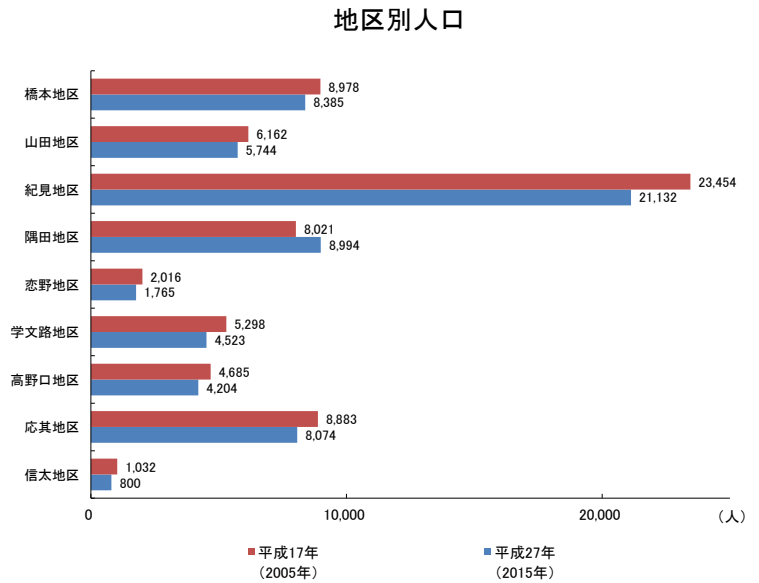
- ・平成 22 年（2010 年）から令和 2 年（2020）の 10 年間で 1,168 世帯増加しているものの鈍化している。



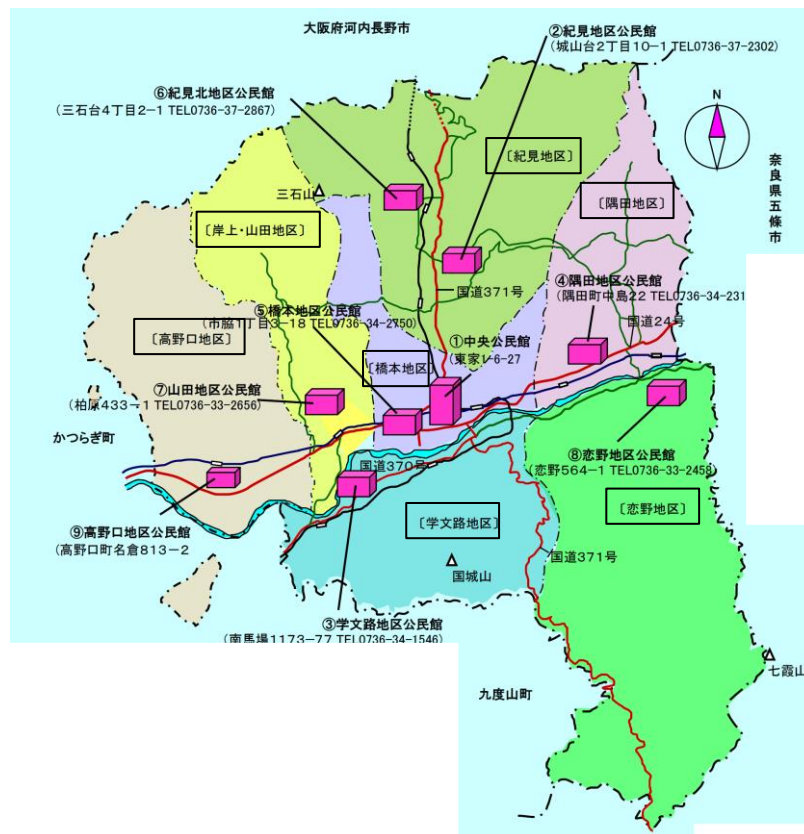
資料：総務省「国勢調査」

(3) 地区別人口 R2 国勢調査未公表

- ・平成 17 年（2005 年）から平成 27 年（2015）の 10 年間で、隅田地区を除き減少している。隅田地区は、紀ノ光台の住宅開発が影響している。
- ・紀見地区の人口割合が最も多く（市全体の 33.2%）、隅田地区の人口割合が増加している。市の玄関口である橋本地区の人口割合に大きな変化はみられない。



注：平成 17 年の岸上地区は山田地区に含む。平成 27 年の紀ノ光台は隅田地区に含む。
資料：総務省「国勢調査」

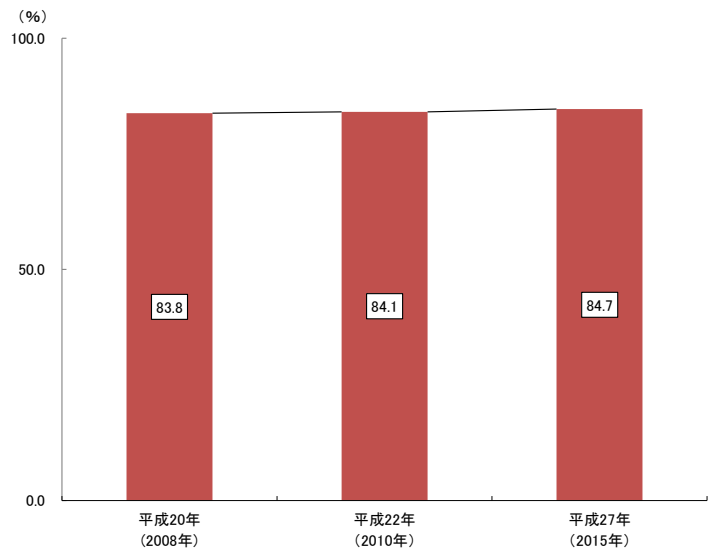


地区位置図

(4) 昼間人口 **R2 国勢調査未公表**

・平成 22 年（2010 年）から平成 27 年（2015）の 5 年間で、ほぼ横ばいの傾向にある。

昼間人口割合

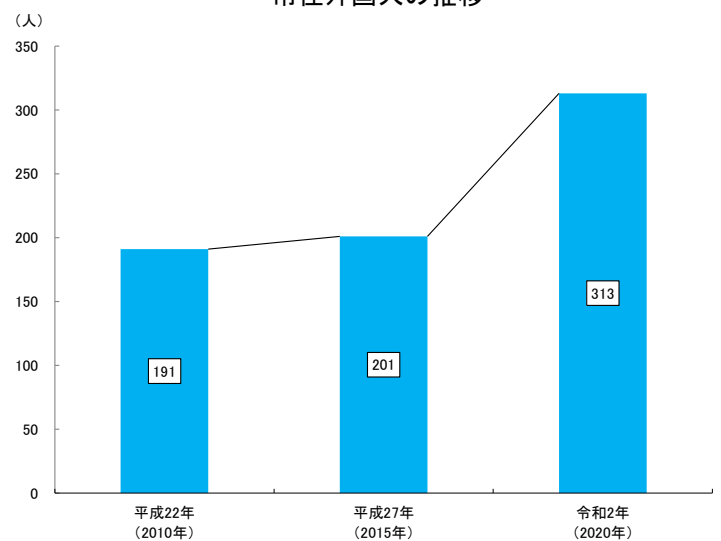


注：昼間人口割合は、昼間人口÷夜間人口
資料：総務省「国勢調査」

(5) 常住外国人 (追加)

・令和 2 年（2020 年）における常住外国人は、総人口の 0.5%とわずかである。平成 27 年（2010）から 112 人増加している。

常住外国人の推移



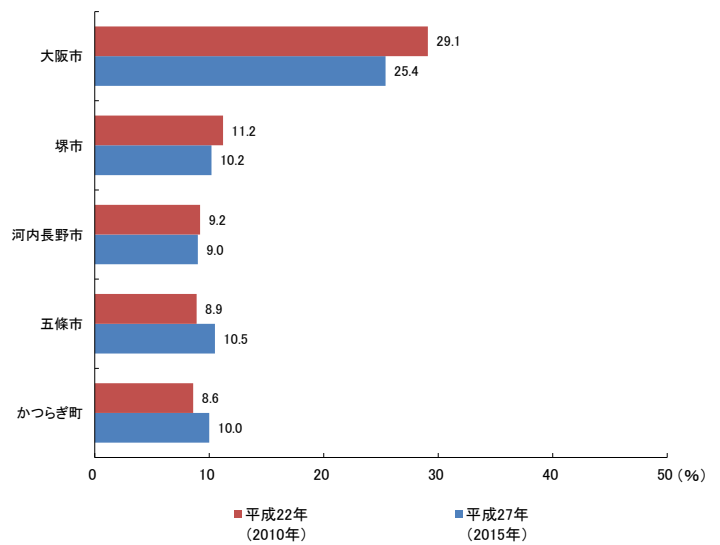
資料：総務省「国勢調査」

(6) 通勤先 **R2 国調未公表**

1) 本市から通勤する市町（流出）

- ・平成 27 年（2015）における本市からの通勤先は、大阪市（大阪府）、五條市（奈良県）、かつらぎ町が上位 3 位を占め、五條市（奈良県）、かつらぎ町は増加傾向にある。
- ・大阪市、堺市、河内長野市は減少傾向にあり、堺市、河内長野市はそれぞれ、4 位、5 位に順位が下がっている。

流出先（通勤）

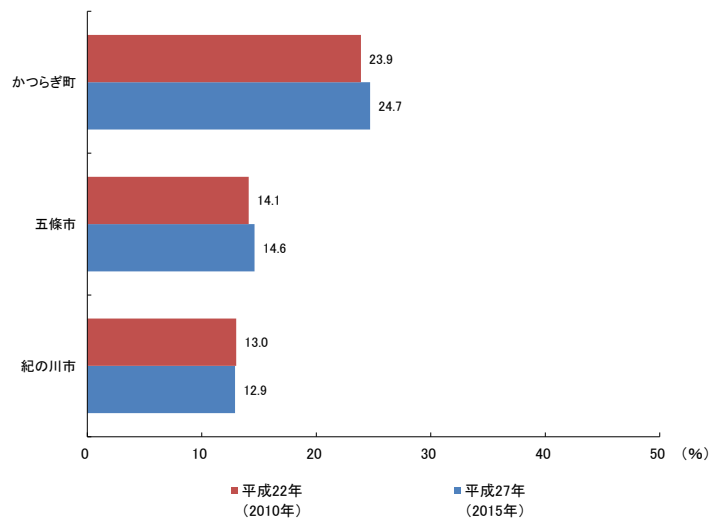


注：橋本市と高野口町の合併は平成 18 年 3 月
資料：総務省「国勢調査」

2) 本市に通勤する市町（流入）

- ・平成 27 年（2015）における本市への通勤先は、かつらぎ町、五條市（奈良県）、紀の川市が上位 3 位を占め、かつらぎ町、五條市（奈良県）は増加傾向にある。

流入先（通勤）

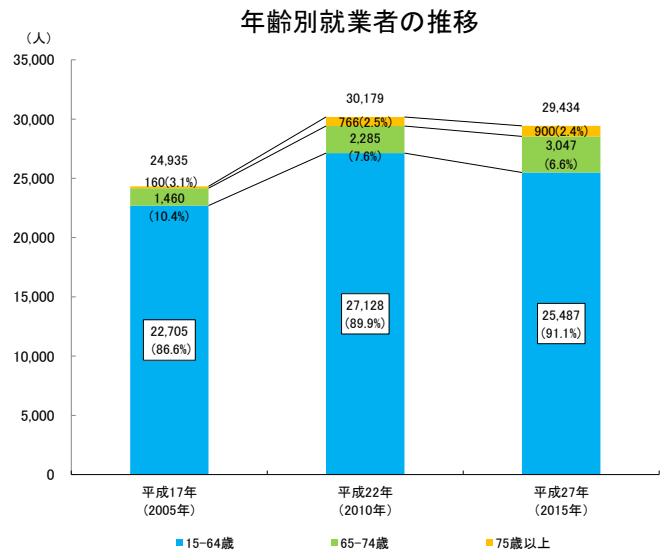


注：%は他市町村からの通勤者総数に対する割合
：橋本市と高野口町の合併は平成 18 年 3 月
資料：総務省「国勢調査」

3. 産業

(1) 年齢別就業者 (追加)

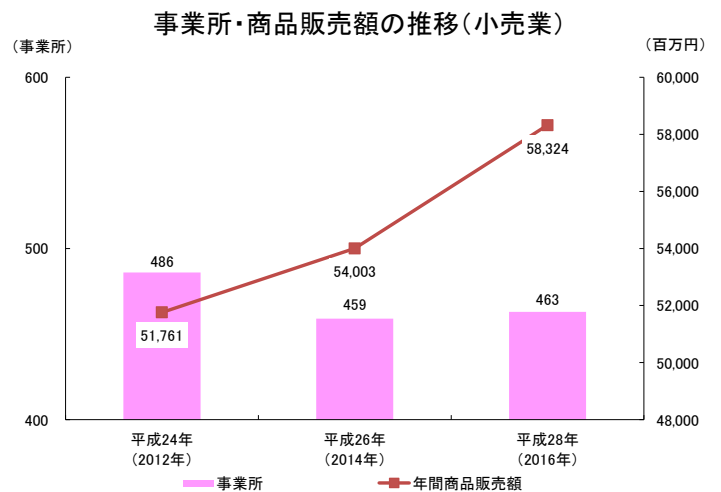
・就業者の約9割が15歳～64歳で、65歳以上の割合は低いものの、65歳～74歳、75歳以上の就業者は増加傾向にある。



資料：総務省「国勢調査」

(2) 小売業 地区毎は未調査

・平成24年(2012年)から平成28年(2016年)の小売業は4年間で23事業所減少し、商品販売額は65.6億円増加している。

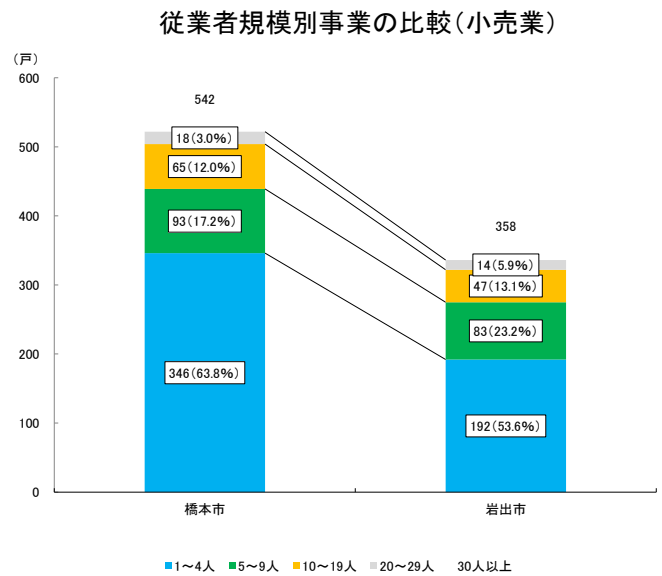


注：商業統計調査は平成26年調査で廃止

資料：総務省・経済産業省「経済センサス-活動調査」

(3) 小売業規模別事業所数 **(追加)**

・平成 28 年 (2016 年) の規模別事業所数を岩出市と比較すると、従業員 1~4 人の事業所の割合が高い。



資料：県調査統計課「和歌山県の工業」

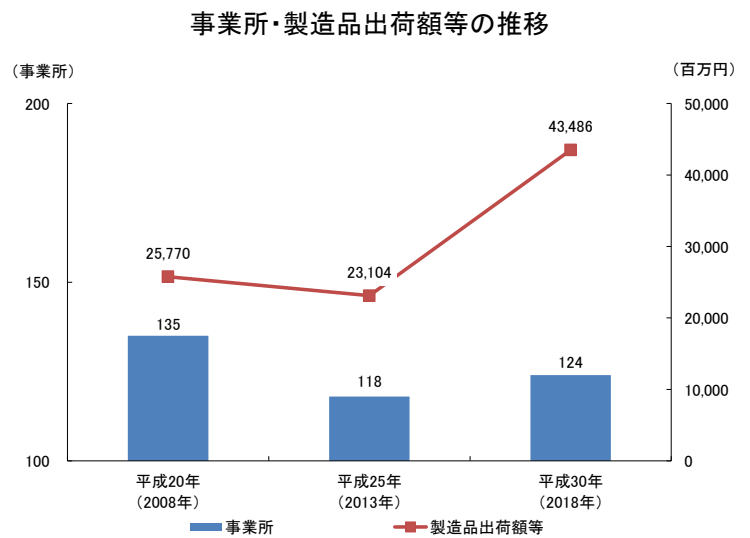
(4) 製造業 **事業所追加**

・製造品出荷額は、平成 20 年 (2008 年) から平成 30 年 (2018 年) の 10 年間で 11 事業所減少している。

・京奈和自動車道における紀北東道路の全線開通 (平成 26 年 3 月)、紀北西道路の部分開通 (平成 27 年 3 月) の効果によるものと考えられる。

・事業所は、平成 20 年 (2008 年) から平成 30 年 (2018 年) の 10 年間で約 177 億円増加している。

※リーマンショック (平成 20 年 9 月) の影響で平成 21 年~25 年は減少。

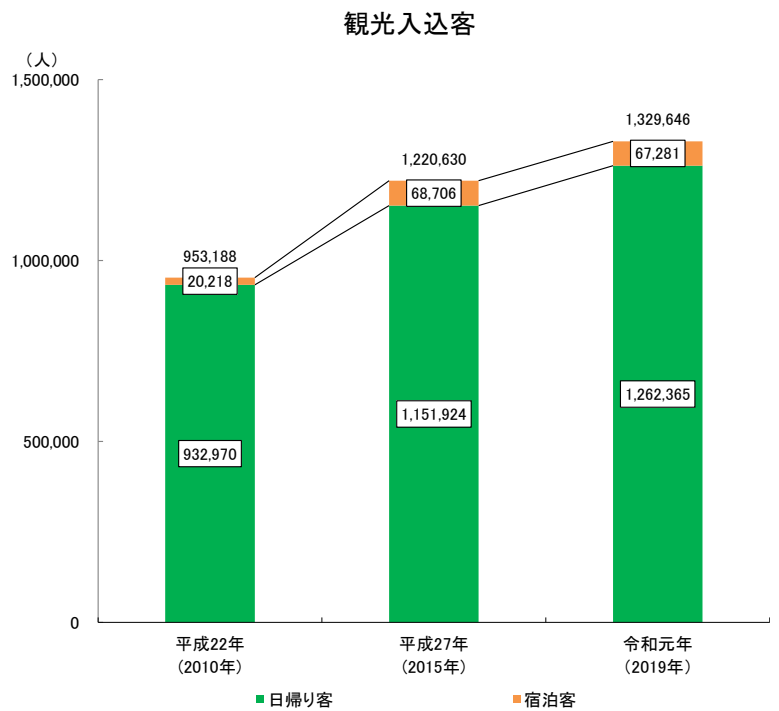


注：従業員 4 人以上の事業所

資料：県調査統計課「和歌山県の工業」

(5) 観光

- ・平成22年度（2008年度）から令和元年度（2019年度）の9年間で約37.6千人増加している。
- ・平成27年には、高野山開創1200年、和歌山国体等の開催、平成28年には「大河ドラマ真田丸」の放映等により、観光入込客は平成22年から大きく増加している。
- ・令和2年度（2020年度）は、新型コロナウイルス感染症等の影響により大きく減少し、981,969人となっている。
- ・観光入込客の95%が日帰り客である。

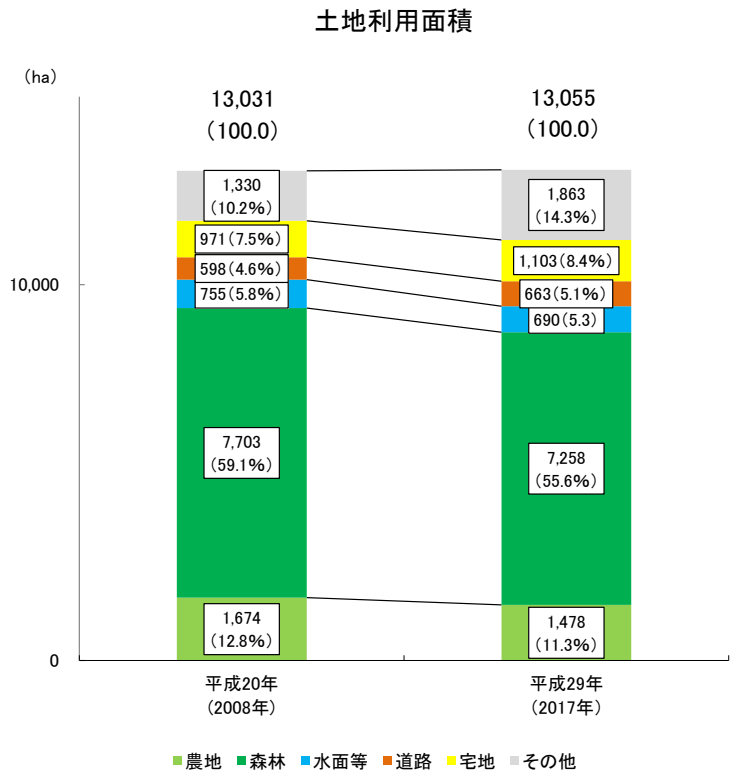


資料：県観光振興課「観光客動態調査報告書」

4. 土地利用

(1) 土地利用現況

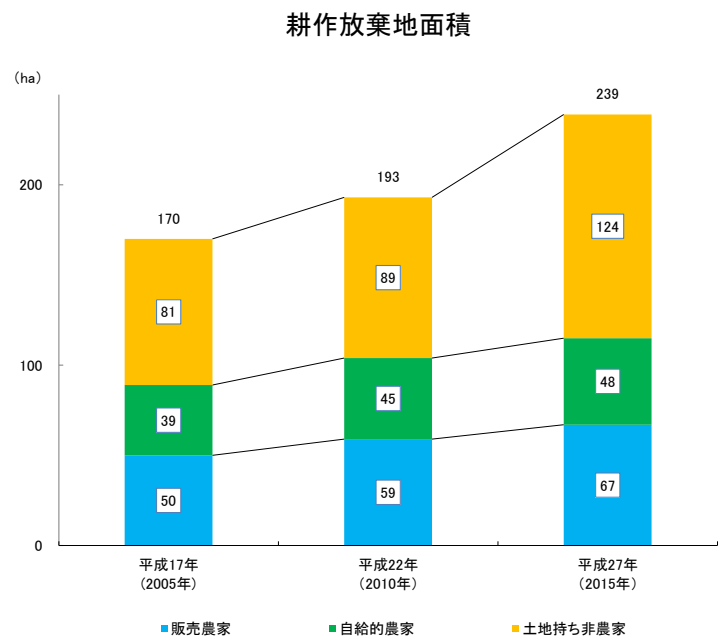
・平成20年(2008年)から平成29年(2019年)の9年間で、森林、農地等が減少している一方、宅地、道路等が増加している。



(2) 耕作放棄地

・平成17年(2005年)から平成27年(2015年)の10年間で、69ha増加している。

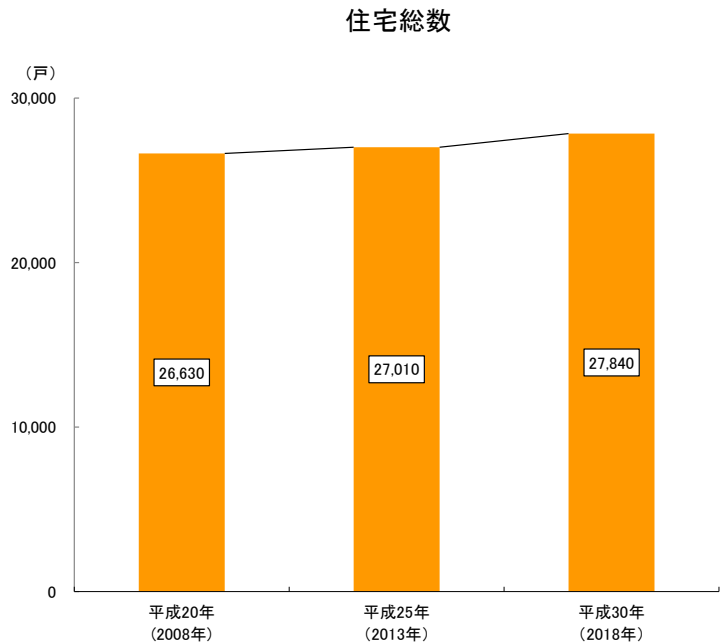
・土地持ち非農家が耕作放棄地の約6割を占め、43haの増加となっている。



5. 住宅

(1) 住宅戸数

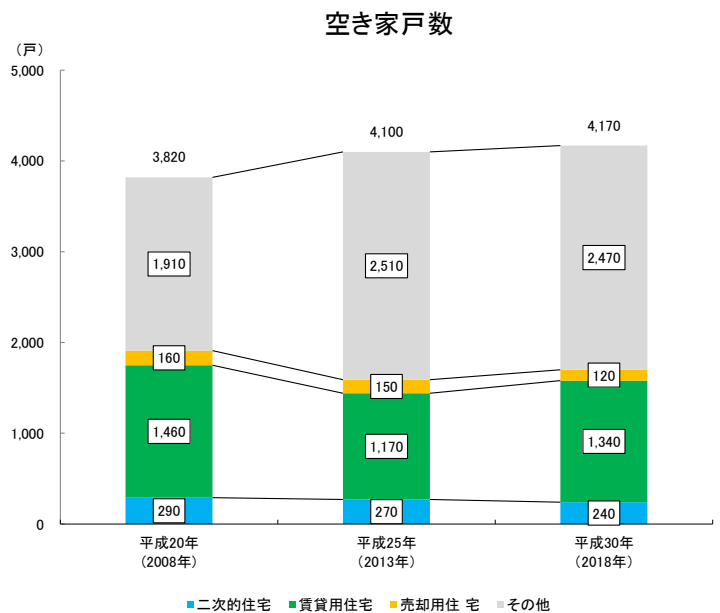
・平成 20 年（2008 年）から平成 30 年（2018 年）の 10 年間で 1,210 戸増加している。



資料：総務省「住宅・土地統計調査」

(2) 空き家

・平成 20 年（2008 年）から平成 30 年（2018 年）の 10 年間で 350 戸増加している。
 ・長期にわたって不在の住宅や、建て替え等のために取り壊すことになっている住宅等の「その他」の増加が著しい。



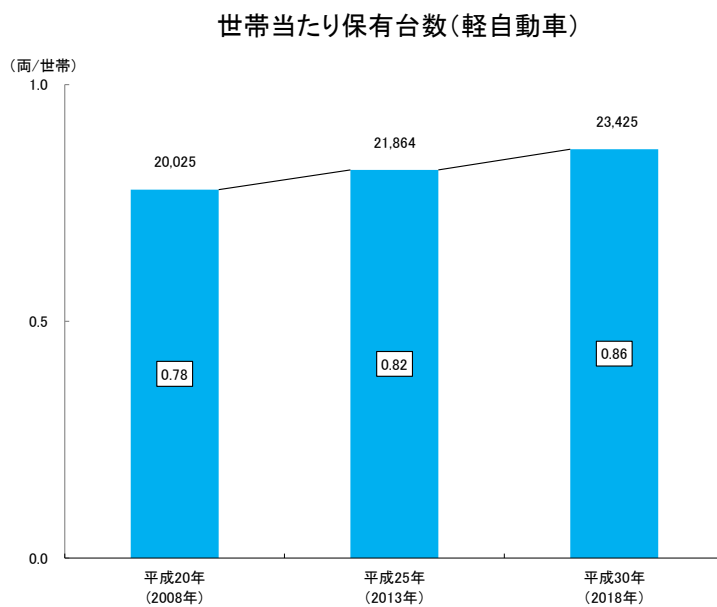
資料：総務省「住宅・土地統計調査」

二次的住宅：別荘－週末や休暇時に避暑・避寒・保養などの目的で使用される住宅で、普段は人が住んでいない住宅
 その他－普段住んでいる住宅とは別に、残業で遅くなったときに寝泊まりするなど、たまに寝泊まりしている人がいる住宅
 賃貸用住宅：新築・中古を問わず、賃貸のために空き家になっている住宅
 売却用住宅：新築・中古を問わず、売却のために空き家になっている住宅
 その他：上記以外の人が住んでいない住宅で、例えば、転勤・入院などのため居住世帯が長期にわたって不在の住宅や建て替えなどのために取り壊すことになっている住宅など

6. 交通

(1) 自動車保有台数

- ・平成 20 年度（2008 年度）から平成 30 年度（2018 年度）の 10 年間で 3,404 台増加している。
- ・世帯当たり自動車台数は、概ね 1 台程度で、0.78 台から 0.86 台とわずかに増加している。



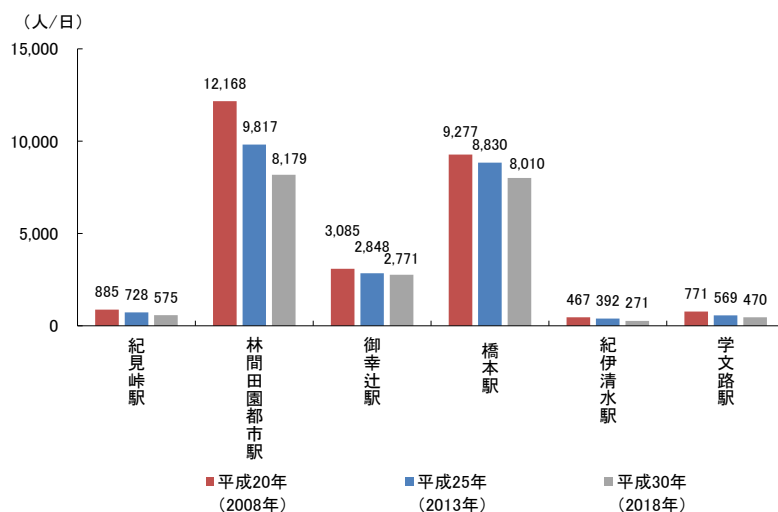
注：自動車は軽自動車（貨物車、乗用車、特殊車）
資料：和歌山県軽自動車協会

(2) 鉄道

1) 南海電鉄日平均乗降人員

- ・平成 20 年（2008 年）から平成 30 年（2018 年）の 10 年間における、南海高野線（難波）の日平均乗降人員は減少傾向にある。
- ・日平均乗降人員は林間田園都市駅、橋本駅の順に多いが、それぞれ 10 年間で 3,989 人、1,267 人減少している。

南海電鉄日平均乗降人員

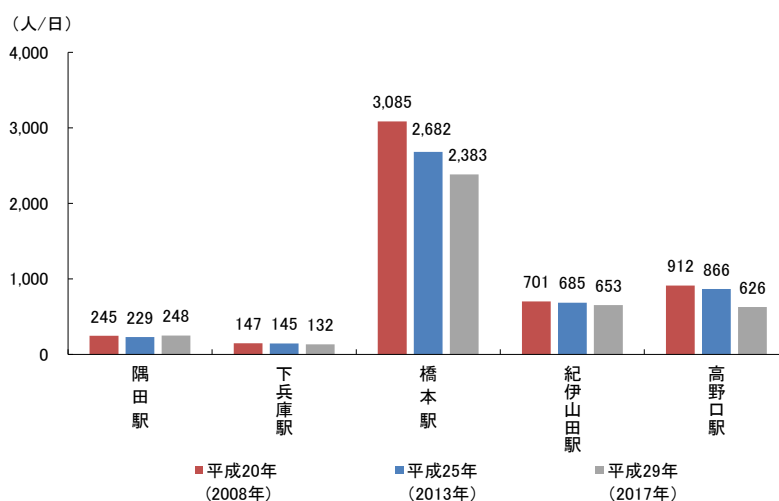


資料：南海電気鉄道(株)鉄道営業本部 統括部

2) JR 日平均乗車人員

- ・平成 20 年度（2008 年度）から平成 29 年度（2017 年度）の 9 年間における、JR 和歌山線の日平均乗車人員は隅田駅を除き減少傾向にある。
- ・日平均乗車人員は特に橋本駅が多く 702 人減少している。高野口駅の減少は伊都高校の併合によるものである。

JR 日平均乗車人員



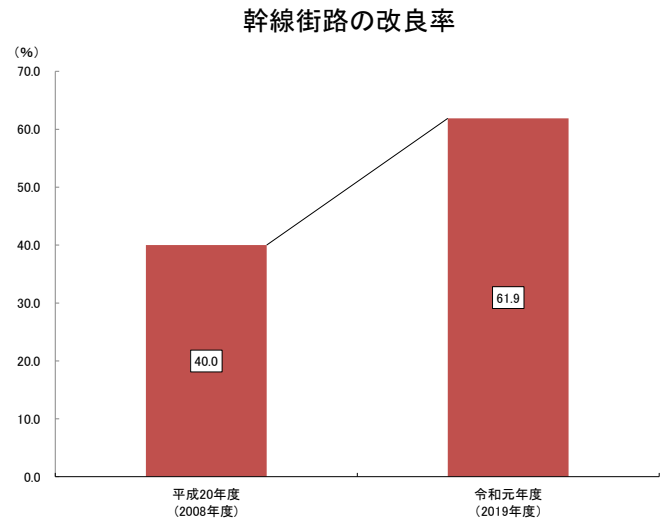
注：乗車人員は定期と定期外の計

資料：西日本旅客鉄道(株)和歌山支社

7. 都市計画

(1) 都市計画道路

・平成20年度（2008年度）から令和元年度（2019年度）の11年間における、幹線街路（自動車専用道路を除く）の改良率は21.9ポイント増加している。



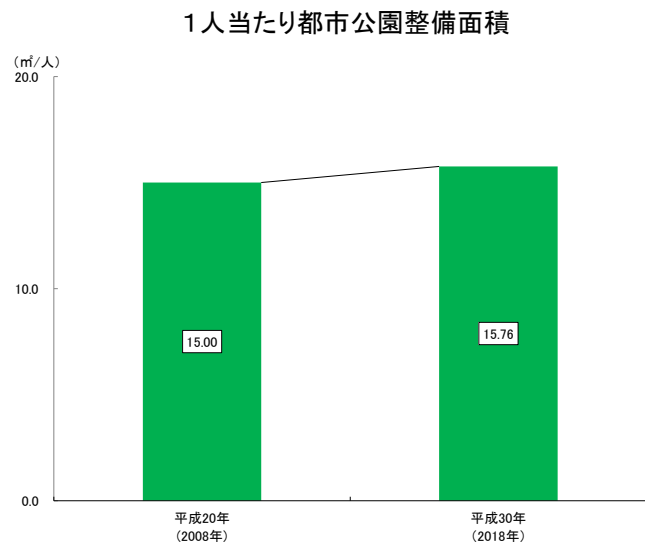
注：各年度未現在

資料：国土交通省「都市計画現況調査」

幹線街路：都市計画道路の道路種別（自動車専用道路、幹線街路、区画街路、特殊街路）の一つ。幹線街路は、都市内におけるまとまった交通を受け持つとともに、都市の骨格を形成する道路
改良済：道路用地が計画幅員のとおりに確保されており、一般の通行の用に供している道路延長

(2) 都市公園

・平成20年（2008年）から平成30年（2018年）の10年間における、1人当たり都市公園整備面積は0.76㎡増加している。



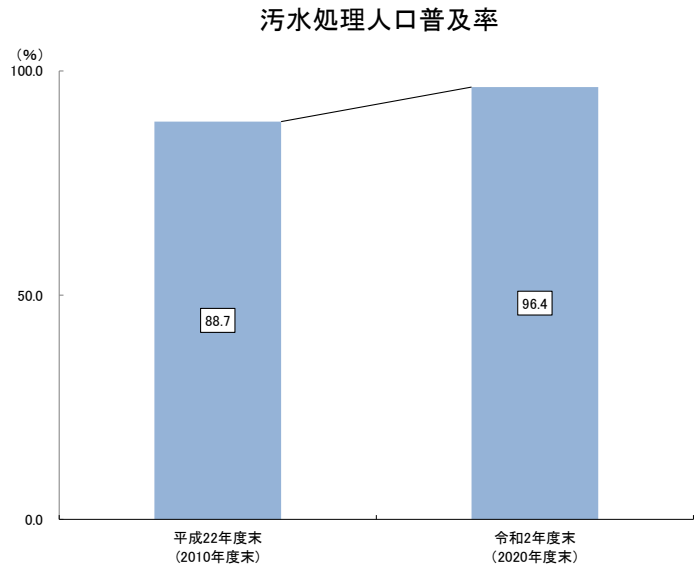
注：1人当たり都市公園整備面積は、各年度12月末（外国人登録含む）人口により算出

資料：都市計画課、商工観光課

都市公園：都市公園法に定められた、国または地方自治体が設置した公園

(3) 汚水処理

・平成22年度末（2010年度）から令和2年度（2020年度）の10年間に於ける、汚水処理人口普及率は7.5ポイント増加している。



注：1人当り都市公園面積は、各年12月末（外国人登録含む）人口により算出

資料：和歌山県 県土整備部 河川・下水道局 下水道課

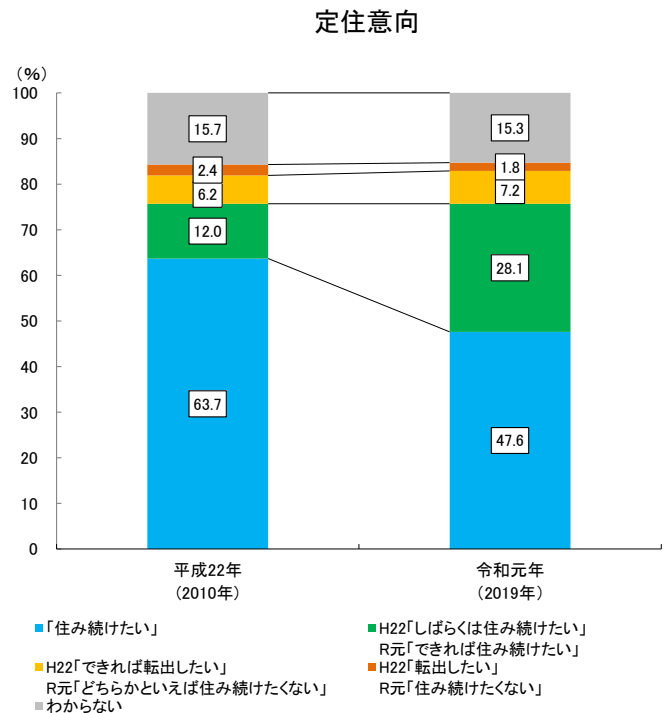
汚水処理人口普及率：下水道、農業集落排水施設等及びコミュニティプラントを利用できる人口に合併処理浄化槽を利用している人口を加えた値を、総人口で除して算定した、汚水処理施設の普及状況の指標

8. 市民意向

(1) 定住意向

・平成22年（2010年）から令和元年度（2019年）の9年間の変化は、「住み続けたい」が16.1ポイントと大きく減少している。

・「住み続けたい」と「できれば住み続けたい（しばらくは住み続けたい（平成22年））」を合わせた定住意向は、ともに75.7%となっている。



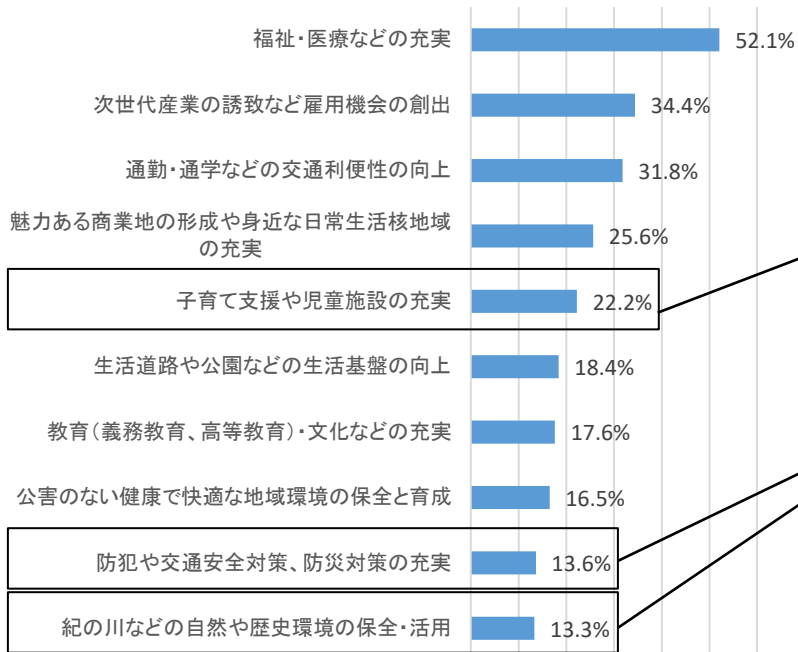
資料：平成22年度都市計画マスタープラン市民アンケート調査報告書
 令和元年橋本市まちづくりのためのアンケート調査報告書

(2) 重点施策

- ・設問内容等は異なるものの、平成 22 年（2010 年）における橋本市都市計画マスタープランと、平成 28 年（2016 年）における橋本市総合計画策定時の市民アンケート調査の重点施策上位 10 位を比較すると、6 年前と同じく、福祉・医療関係の取組の割合が最も高い。
- ・順位は、子育て支援関係の取組が 5 位から 2 位、本市の魅力である自然環境等の取組が 10 位から 4 位、防災・防災関係の取組が 9 位から 5 位に上がっており、これらへのニーズが高まっていることがうかがえる。

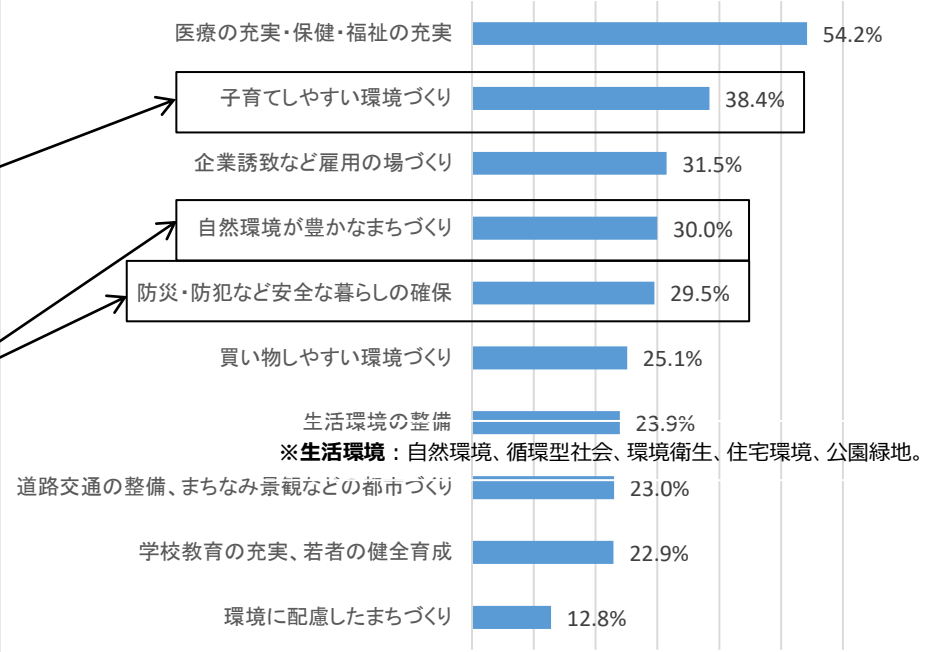
平成 22 年度
都市計画マスタープラン・緑の基本計画に関するアンケート調査
(実施期間：平成 22 年 6 月 29 日～平成 22 年 7 月 20 日)

人口の流出防止など定住化を促進するためには、どのような施策を重点的に進めていくべきだと思いますか。【複数回答】(上位 10 位を抽出)



平成 28 年度
橋本市長期総合計画策定方針 市民意識調査
(実施期間：平成 28 年 8 月 30 日～9 月 12 日)

将来めざすべきまちを実現するために橋本市が重点的に行うべきと思われる取組を選んでください。【複数回答】(上位 10 位を抽出)



※防災・防犯に関する市民意向

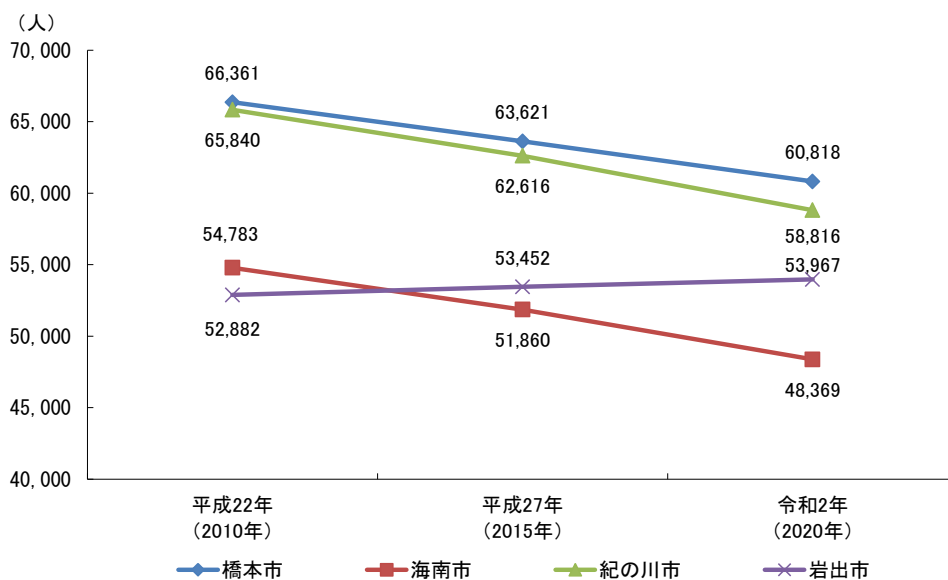
- ・防災：災基盤の整備 (44.4%)、建物の耐震化不燃化 (23.9%) 地域防災体制への支援 (19.7%)。
- ・防犯：防犯灯の充実 (35.3%)、公共施設における防犯対策の強化 (20.1%)

1.人口

(1) 人口推移

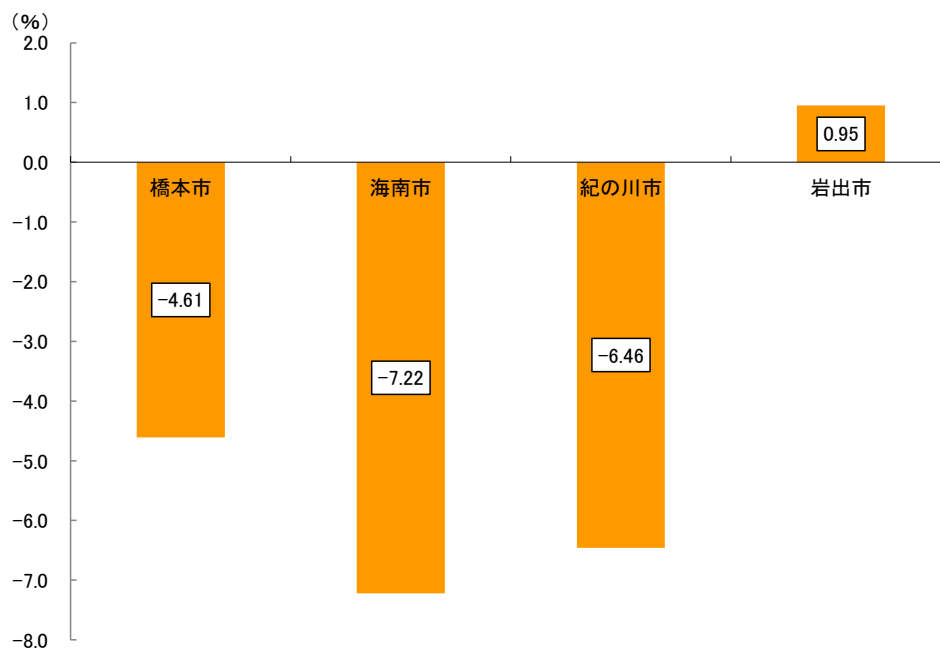
4市のうち、岩出市が増加、本市を含む3市が減少傾向にある。本市は平成27年～令和2年の5カ年減少率は3市において最も低くなっている。人口総数は本市が最も多くなっている。

人口の推移



資料：総務省「国勢調査」

人口増減率(H27～R2年)

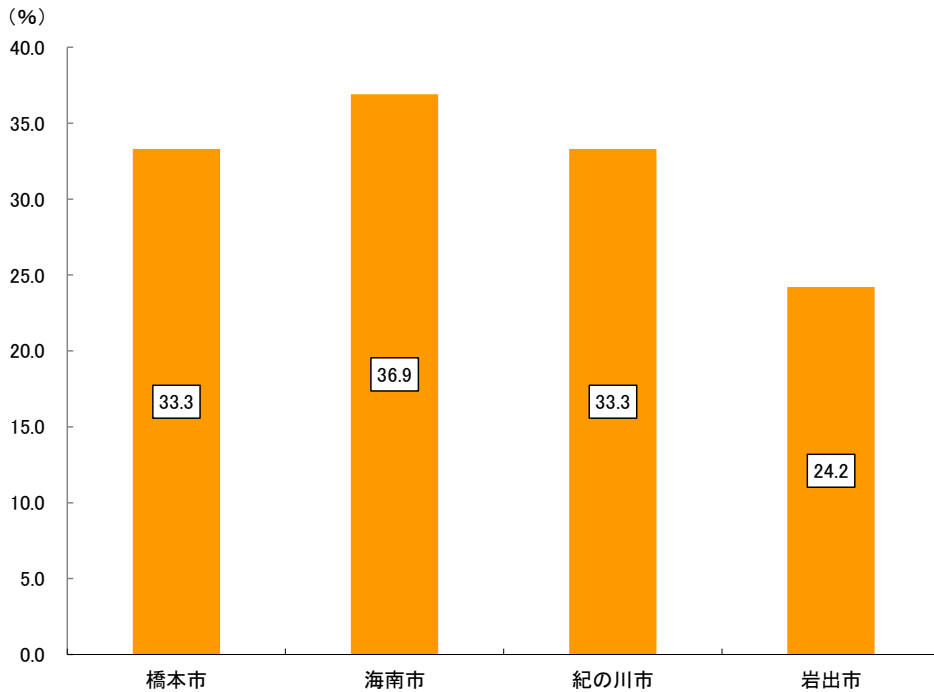


資料：総務省「国勢調査」

(2) 高齢化率・出生率

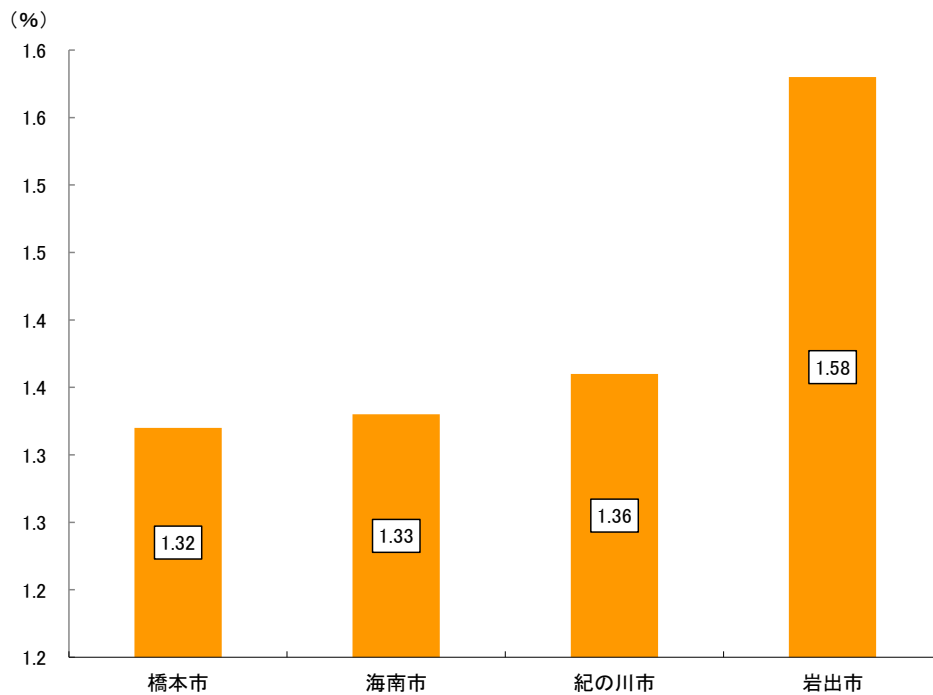
4 市のうち、海南市の高齢化率が高くなっているが、本市及び紀の川市も 30%を超えている。岩出市は 24.2%で最も低く、出生率は 4 市で最も高い。

高齢化率(R2 年 65 歳以上)



注：高齢化率は総人口に占める 65 歳以上の割合。
資料：総務省「国勢調査」

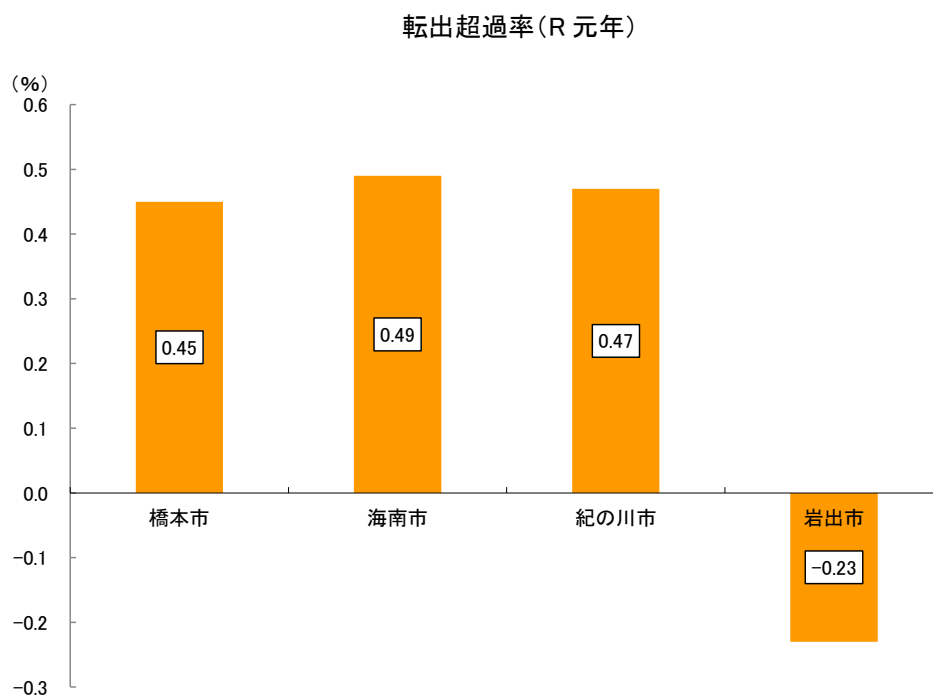
合計特殊出生率(H29 年)



注：合計特殊出生率は、15 歳から 49 歳までの女性の年齢別出生率を合計したもの。
資料：厚生労働省「人口動態統計特殊報告」

(3) 転出超過率

4市のうち、岩出市が転入超過、本市を含む3市が転出超過となっている。



注：転出超過率は「(転出人口-転入人口) / 総人口」による。

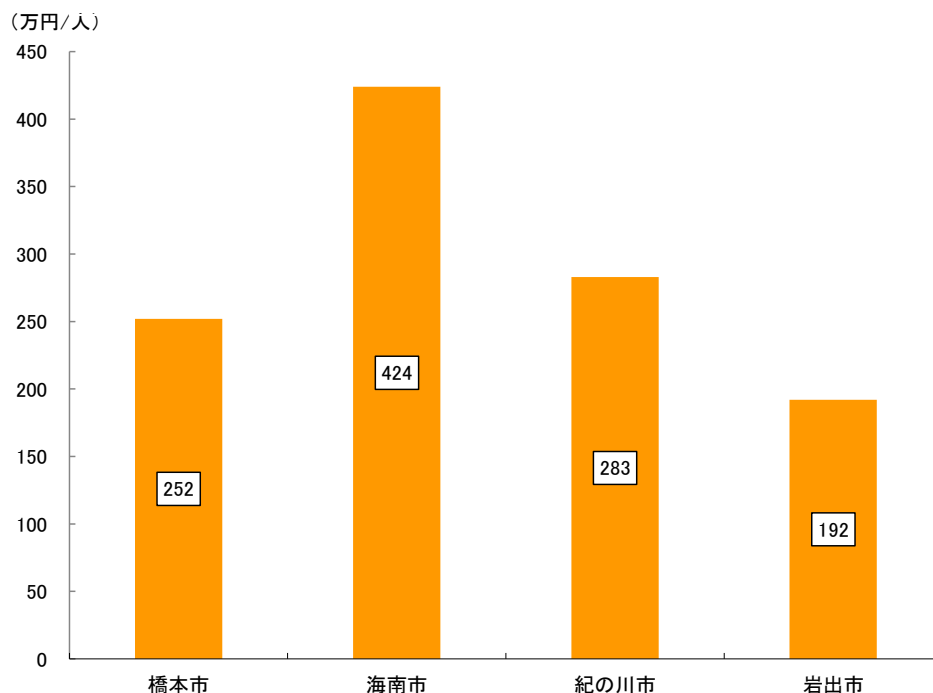
資料：県調査統計課「県人口調査」

2.経済

(1) 市内総生産額と所得金額

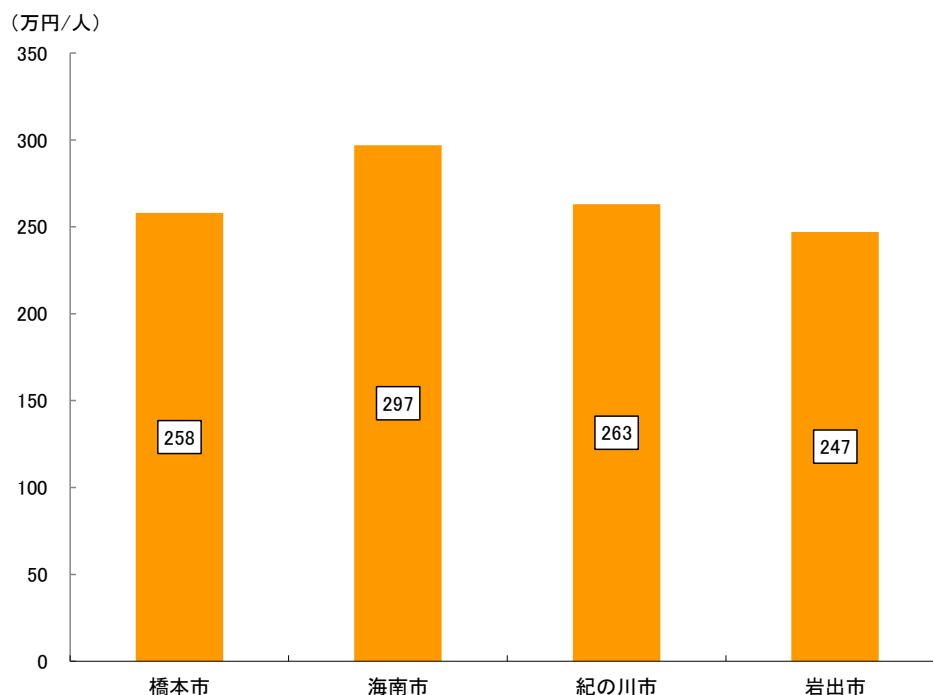
市民 1 人当たりの総生産額は、海南市が最も高く、本市は紀の川市に次いで第 3 位となっている。なお、海南市の製造品出荷額等は県下第 1 位となっている。市民 1 人当たり所得金額も、総生産額とほぼ同様の傾向となっている。

市民 1 人当たり総生産額(H30 年度)



注：市内総生産とは、市内でその 1 年間に生産された価値（付加価値）の総額。
資料：県調査統計課「和歌山県市町村民経済計算結果」

市民 1 人当たり所得金額(H30 年度)

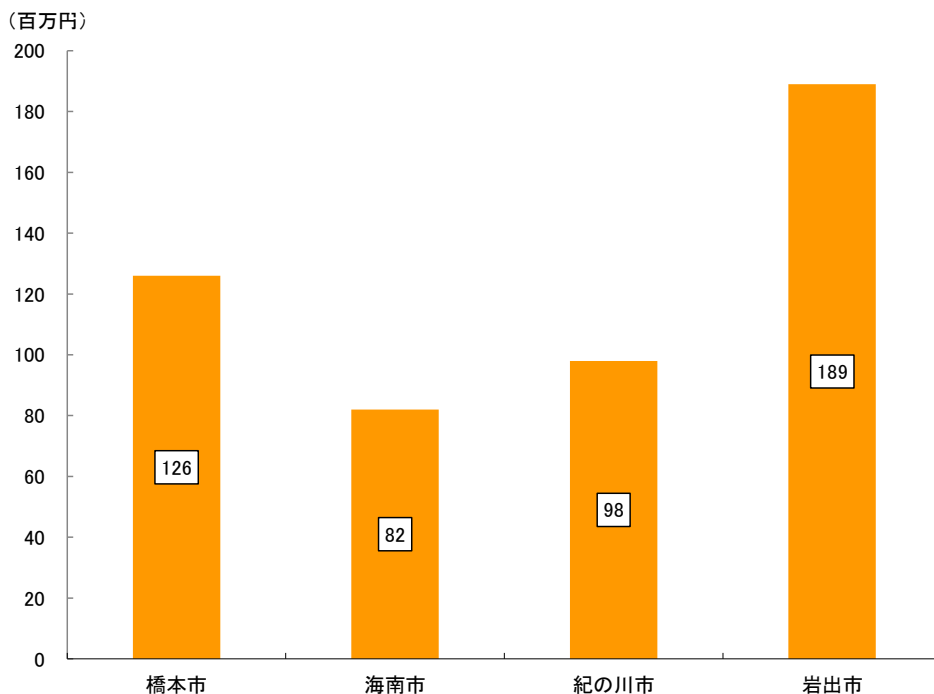


注：市民所得とは、市内に居住している者（法人等を含む）に分配される所得のこと。
資料：県調査統計課「和歌山県市町村民経済計算結果」

(2) 小売業商品販売額

1 事業所当たり商品販売額は、岩出市が突出して高く、本市は第 2 位となっている。岩出市の売場面積は 4 市で最も高く、商品販売額の順位と相関している。

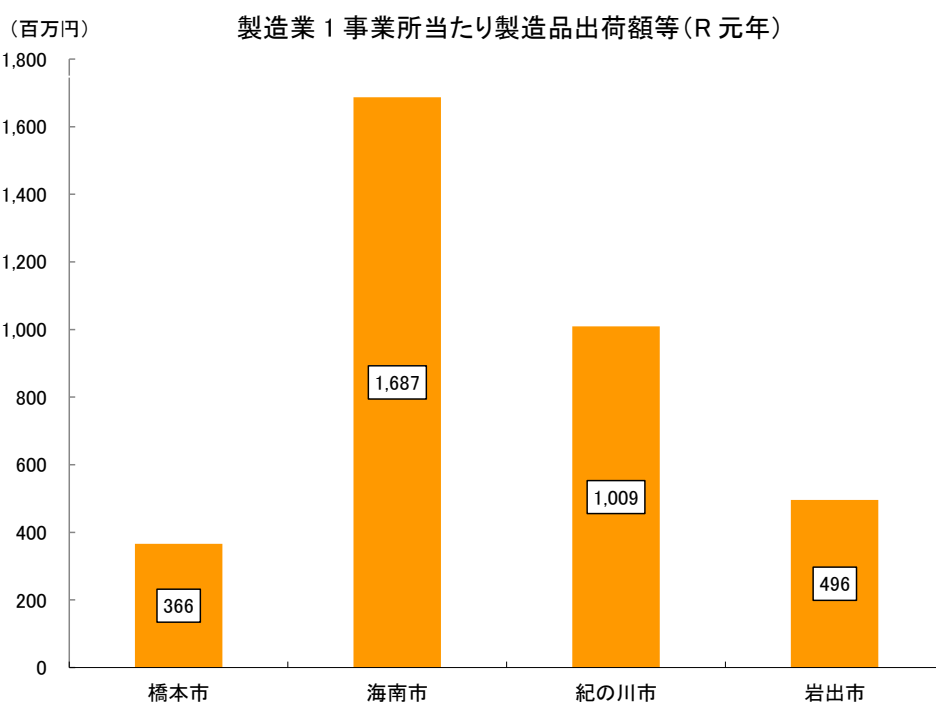
小売業 1 事業所当たり商品販売額 (H28 年)



資料：経済産業省「経済センサス調査」

(3) 製造品出荷額等

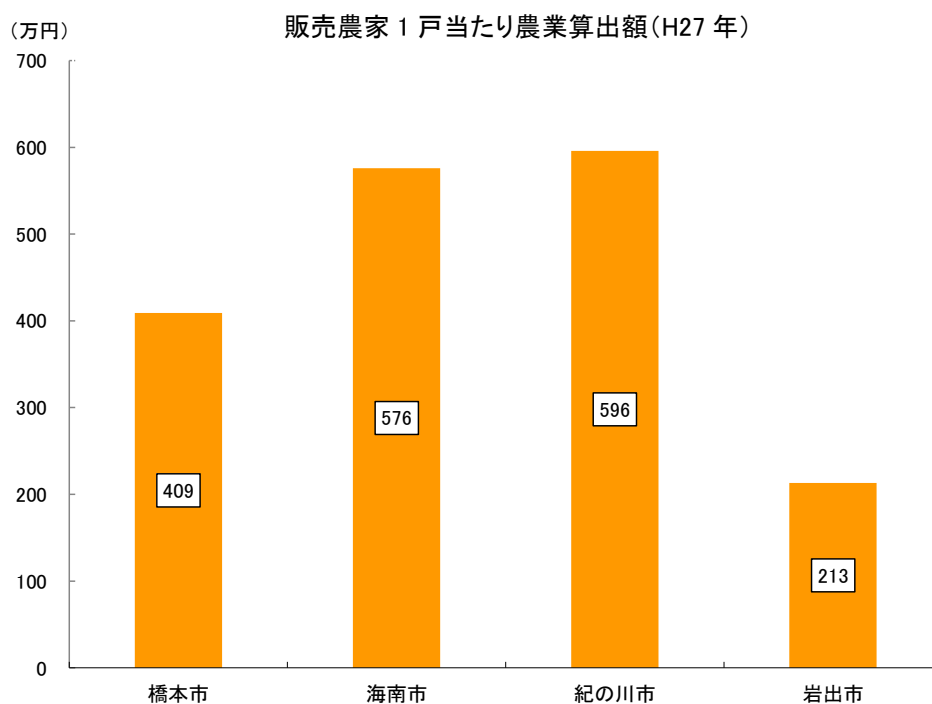
1 事業所当たり製造品出荷額等は、海南市が突出して高く、本市が最も低くなっている。本市の製造品出荷額等は岩出市の約 2 倍であるが、岩出市の事業所数は本市の 3 割程度であることによる。



資料：県調査統計課経「工業統計調査」(4人以上の事業所)

(4) 農業産出額

販売農家 1 戸あたり 農業産出額は紀の川市、海南市が高く、本市は第 3 位となっている。農業産出額は、概ね販売農家数と耕作面積と相関している。

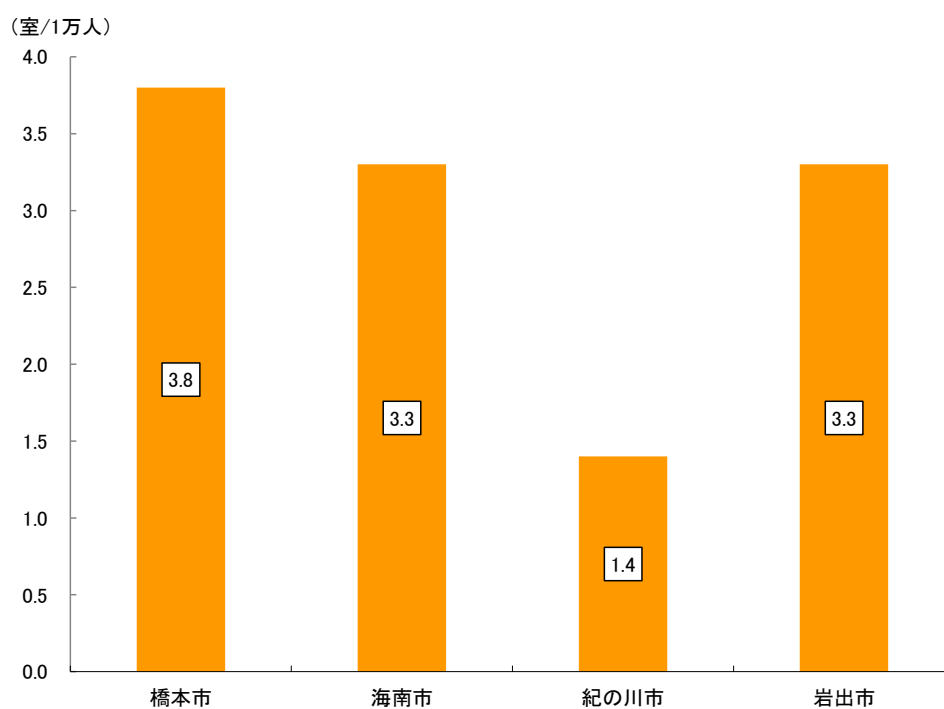


資料：農林水産省「市町村別農業産出額（推計）」

(5) 宿泊施設の客室数

観光客数 1 万人当たりの客室数は、本市が最も高くなっている。なお、本市の観光客数は紀の川市、岩出市より少ないが、高野山の玄関口であることから客室数は岩出市に次いで多い。

観光客 10 万人あたりホテル・旅館の客室数 (R2 年)

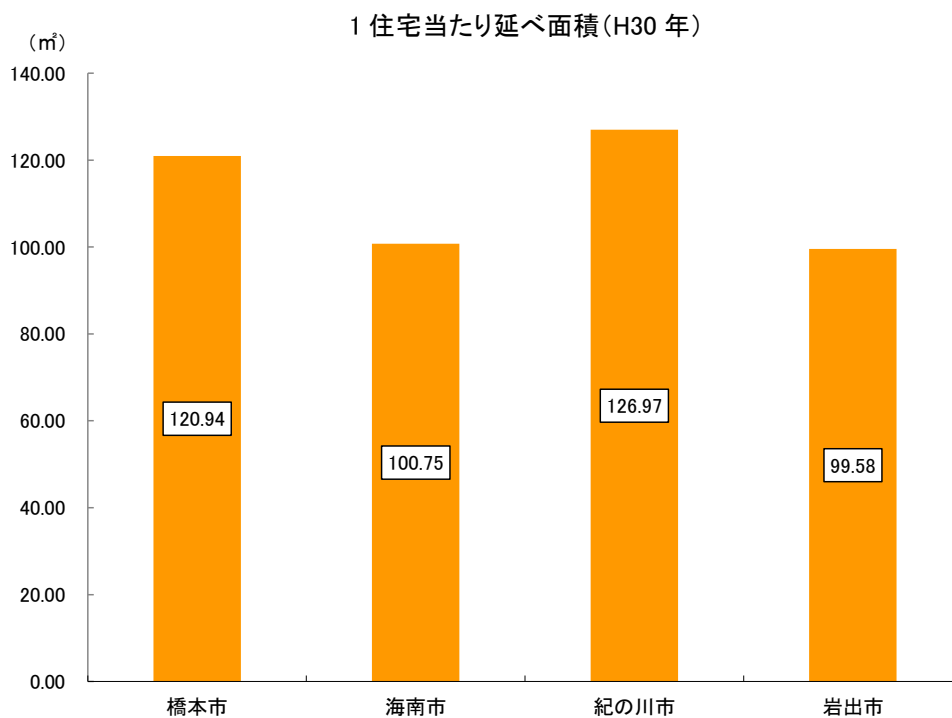


資料：県観光局「観光客動態調査報告書」

3.生活環境

(1) 住宅延べ面積

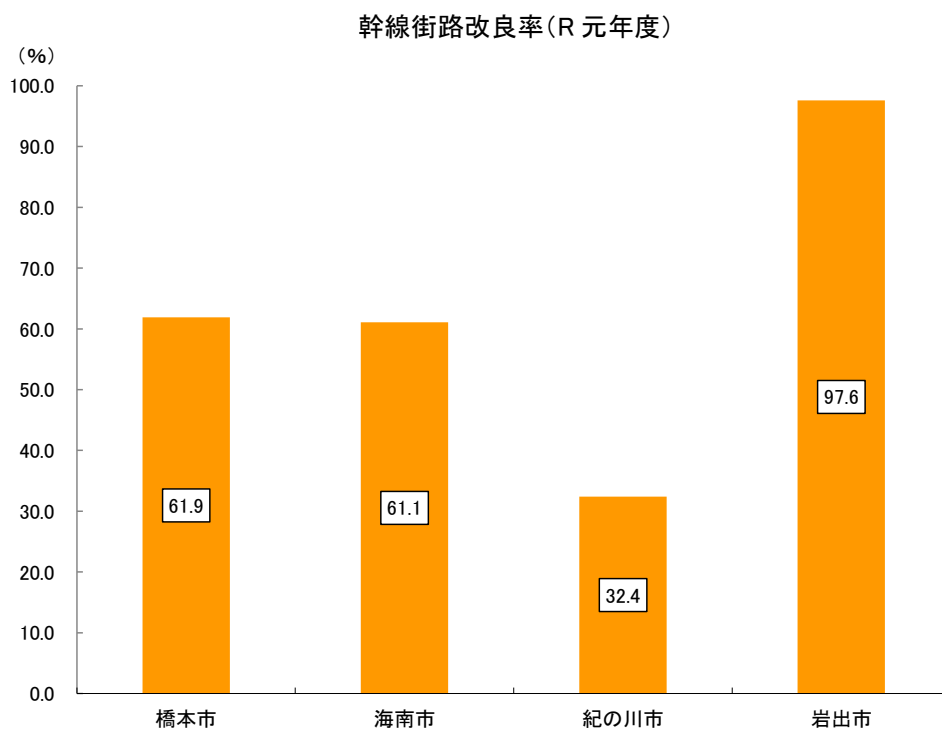
1 住宅当たり延べ面積は、紀の川市と同様に高く、比較的ゆとりある居住環境を有している。



資料：総務省「住宅・土地統計調査」

(2) 都市計画道路（幹線街路）改良率

岩出市の改良率が最も高く、本市は海南市と同じく6割程度の改良率となっている。なお、本市の計画延長が最も長く、岩出市は本市の3割程度で最も短くなっている。



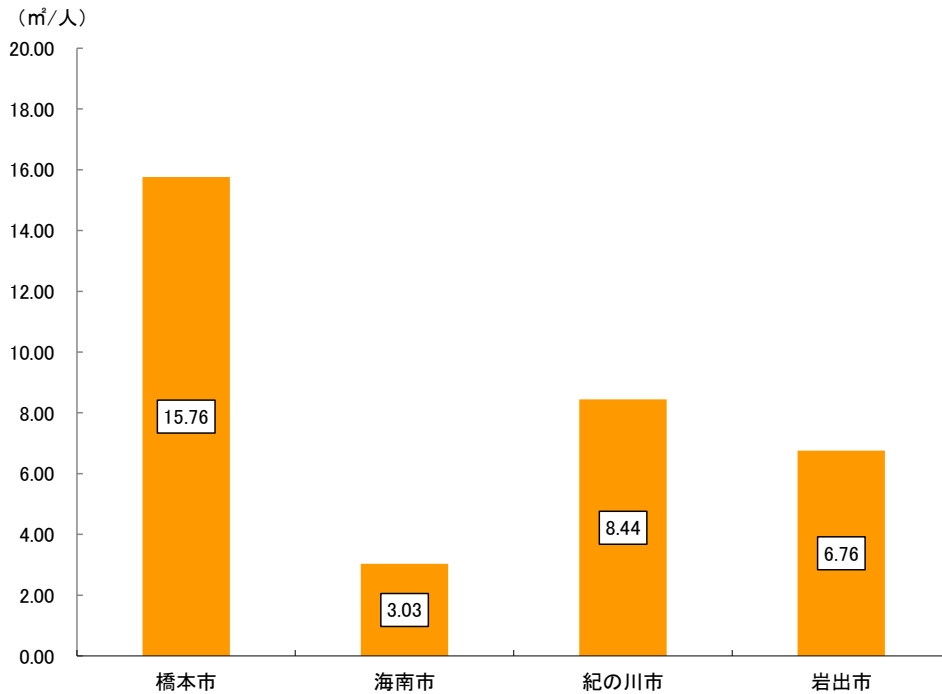
注：自動車専用道路を除く。

資料：国土交通省「都市計画現況調査」

(3) 都市公園整備面積

都市公園の市民1人当たり整備面積は、本市が最も高くなっている。なお、本市の都市公園は56箇所、第2位の紀の川市が13箇所となっている。

市民1人当たり都市公園整備面積(H29年度)

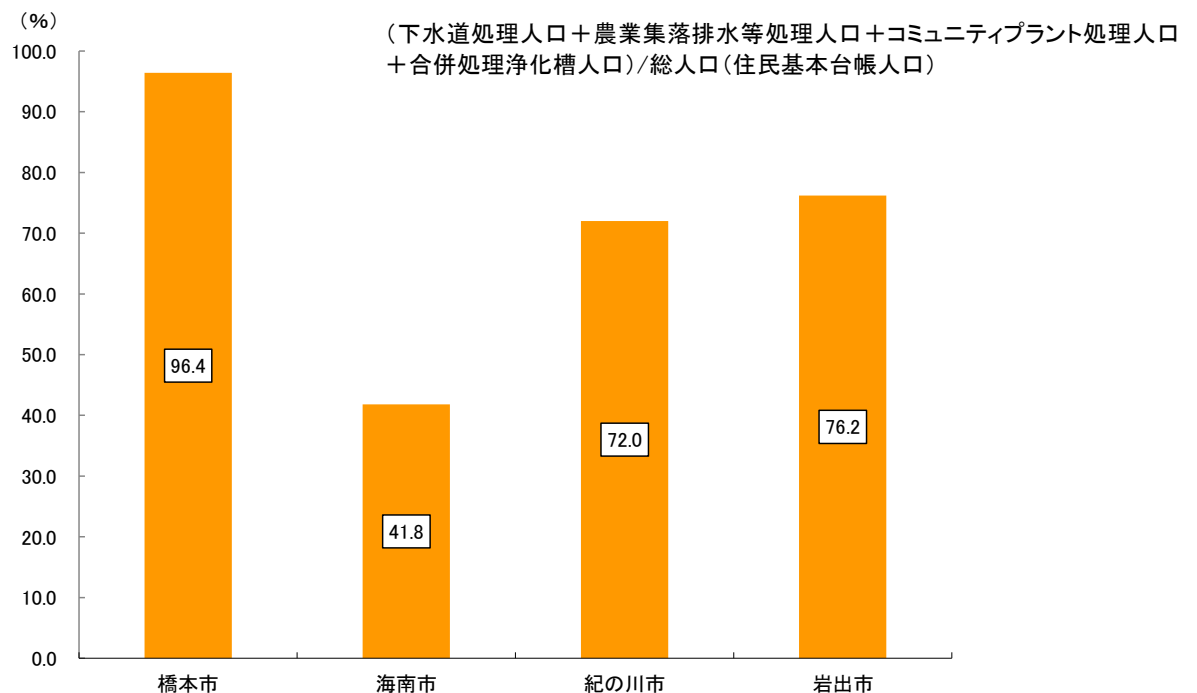


資料：県都市政策課

(4) 汚水処理人口普及率

汚水処理人口普及率は、本市が最も高くなっています。なお、海南市では下水道が整備されておらず、浄化槽による処理となっている。

汚水処理人口普及率(R2年度)



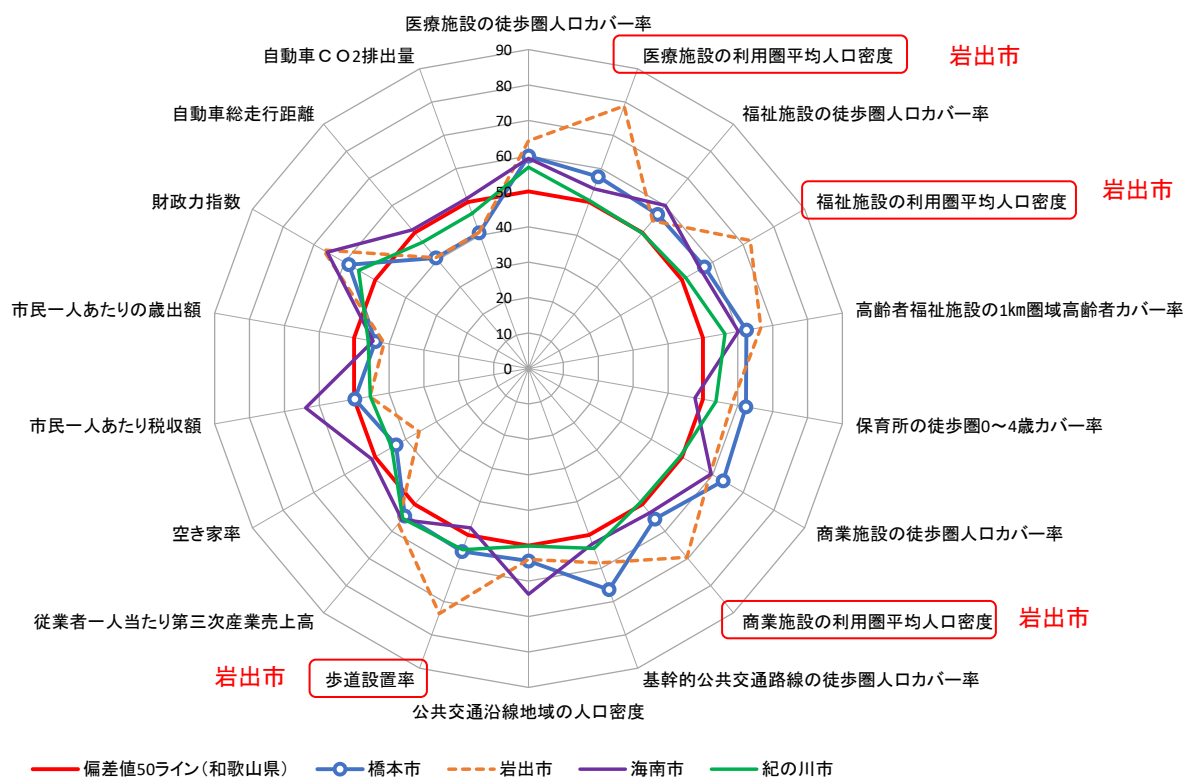
資料：県下水道課

4.都市構造評価

都市の構造を定量的に評価する都市構造評価において、本市は、県及び4市と比較し、「保育所の徒歩圏0～4歳カバー率」、「商業施設の徒歩圏人口カバー率」、「基幹的公共交通路線の徒歩圏人口カバー率」が高く、「空き家率」、「自動車総走行距離」、「自動車CO2排出量」は低くなっている。

なお、人口が増加している岩出市は、「医療施設の利用圏平均人口密度」、「医療施設の利用圏平均人口密度」「商業施設の利用圏平均人口密度」、「歩道設置率」が突出して高くなっている。

都市構造評価(平成30年3月末)



資料：国土交通省「都市構造評価指標データリスト」